

## 地域共生社会づくりワークショップ 参加学生の声

北海道教育大学函館校

地域政策グループ4年 藤田 優輝

私は、イベントの前後で参加者の障がい者観がどのように変容するのか興味があり、参加しました。イベントを通して、車いすラグビー選手による自身の障がいの説明や、障がい者観に対する想いを聞くことができました。その中で、選手やスタッフが障がいによる身体への影響について終始笑顔でお話されていたことなど、障害に対して前向きな「姿勢」が多く見受けられたことが印象的でした。

更に、競技用車いすに乗り、鬼ごっこ体験やタックル体験など、普段感じるできない感覚を体験した上で、障がいに対するイメージの変化などの意見交換を行いました。意見交換したことで、「障がいを持った人は支えられる存在ではなく、自分たちを支える存在になりうる」ということを強く実感しました。自分たちにも得意・不得意があるように、障がいを抱えている人も得意・不得意があるため、お互いが支え合って生きていくことが最善だと思うようになりました。

福祉の知識が少ない参加者でも引き込まれるような内容であったため、障がいに対する考え方が大きく変わる時間になりました。



レクチャーの様子



グループワークの様子

